



①箔検電器の金属円板(P)に、負に帯電させた塩化ビニル管を近づける。静電誘導により、Pは正、箔は負に帯電し、箔が開く。

②塩化ビニル管は①のままで、Pを接地(下記を参照)された銅板(G)につなぐ。箔の負電荷が導線を通じてGに逃げるので、箔は閉じる。

③導線を外し、塩化ビニル管を遠ざける。Pの正電荷が箔にも分布するので、箔はふたたび開く。